

平成 30 年度がん教育総合支援事業
がん教育推進校実践報告

北海道富良野高等学校

学級数：12 学級 生徒数：457 人

【実践テーマ〈キーワード〉】

がんについて多面的に理解し、健康と命の大切さについて主体的に考える態度を育成する。

〈キーワード〉 看護専門学校の学生と意見交換

1 はじめに

本校では、これまで科目「保健」において、「現代社会と健康」の単元において生活習慣病とその予防や健康の保持増進について指導をしてきている。

現在日本人の2人に1人ががんに罹患する状況は喫緊の健康問題であり、その影響が社会にも大きく影響を及ぼすとともに、個人の人生にも深く寄与していることを鑑み、高校生が正しい知識を身に付けるとともに、自己の健康を保持増進できる態度を育成することが急務であると考え、事業を推進していくこととした。

2 実践

(1) がん経験者による講話

事前に生徒から「どんなことを聞きたいか」意見を聞き、講話内容について打合せを行った。

北海道がんセンターピアサポーターの滝澤氏による講話を実施し、「がん経験者になったからこそ気付けたこと」をテーマに、家族への伝え方、医療関係者や仲間の支えにより前向きに捉えられたこと等についてお話しいただいた。



(2) データを用いて地域の課題を考察する保健の授業（1 学年）

講話の事前学習として、日本と北海道や富良野のがん罹患患者数などの数値を比較し、その原因について考えるグループディスカッションを行った。

ヨンを行った。



(3) 講話を中心とした教科を横断した教育課程（1 学年）

講話と講話の内容を確認し、事前事後の学習を教科横断的に行った。（資料2）

事前学習では、保健の他、生物基礎において、細胞周期の異常の視点からがんの発生メカニズムを扱った。

事後学習では、家庭基礎において、食生活とがん予防、共生と社会保障・QOLを扱うことにより、学習した知識が結びつき、深い学びへとつながった。



(4) 看護学校と連携した取組（看護希望者）

近隣の富良野看護学校と連携し、看護学生と「がんの告知」についてディスカッションを行った。

事前学習として、生物において、がんの告知の範囲等について新聞記事や外部講師による講話の内容を基にグループディスカッション

ンにより各自の考えをまとめた。

[看護専門学校とのディスカッション]

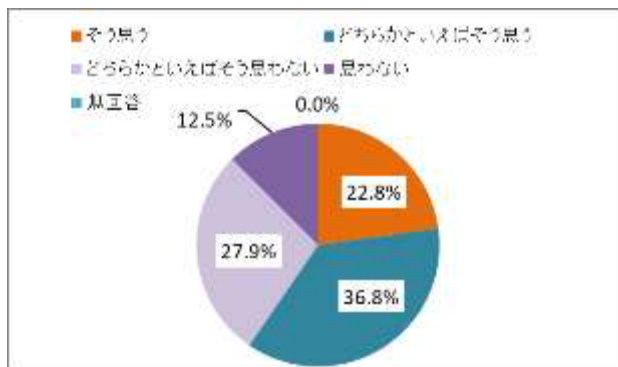


【ディスカッション等で出た意見】

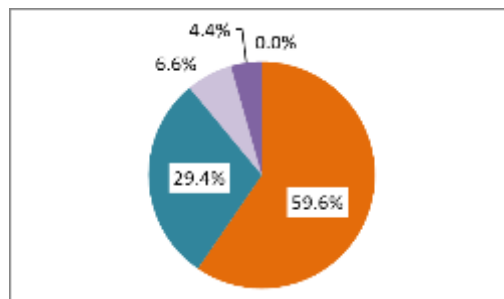
- 自分ががんになったら、ショックでしばらくは立ち直れないと思うが、つらいことを家族や友達、仕事の上司に伝えることでサポートを受けられるから、伝えることが大事だと思った。
- 大切な人ががんになったら、本人が一番つらいと思うので、できるだけサポートしたい。
- 医療（治療方法など）はどんどん進むが、人の心のケアは変わらず必要なことなので、多くの人ががんを身近な病気として理解することが大切だと思った。 など

○ がんになっても生活の質を高めることができる。

(実施前)



(実施後)



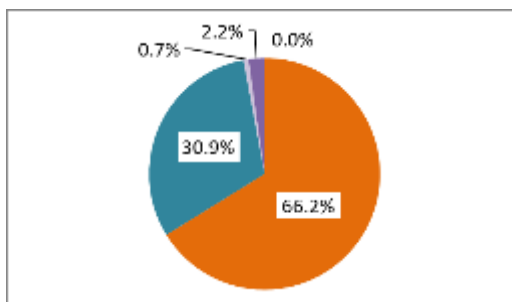
3 生徒アンケートの結果

○ がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。

(実施前)



(実施後)



4 実践の成果と課題

○ 成果 ○

保健体育科、理科、家庭科の授業における、がんの発生のメカニズムや予防についての学習を教科横断的に計画することに加え、外部講師による講話を関連付けて実施することにより、がんに関心しても生活の質を高め、前向きに生きていくことの重要性について理解を深めることができた。

● 課題 ●

実際に自分が、がんに関心するかも知れないと考える生徒が少ないことから、生徒が現在の自分の生活習慣の中でがんの要因となり得る習慣を確認するとともに、がんの予防に向けた具体的方策を考察し、その理由とともに発表することにより、がんを自分のこととして捉えることができるよう指導する必要がある。

平成 30 年度がん教育推進校実践内容

学校名 北海道富良野高等学校

対象学年 または 対象者 (人数)	月日	教科等	時間 数	学習内容	講 師
1 年次 (136)	12/4	理科 (生物基礎)	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「よくわかる！がんの授業」を見ながら理解度をチェックし動画の感想をまとめた。 ※公益財団法人日本対がん協会作成動画 (m.youtube.com/channel/UCMi-HSY-cf60fb1ya6LUQDg) ・発がんのメカニズムや細胞周期の異常について、教科書の内容（発展項目）から講義を通して理解を図った。 	本校理科教諭
	12/6	保健体育科 (保健)	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本のがん罹患者数都道府県ランキング」のデータと、生徒が住んでいる地域のデータを比較し、その原因について考えるグループディスカッションを行った。 ※都道府県ランキングデータ (https://style.nikkei.com/article/DGXXZ005992250S6A810C1TZQ001) 	本校保健体育科教諭
	12/12	外部講師 による講話	1	<ul style="list-style-type: none"> ・検診率をもとに、がんの発生と予防について、講義を通して理解を図った。 ・演題「がんになったからこそ気づけたこと」によるがん治療経験者の講話。命・家族・がんになってからの考え方、検診を受ける大切さを学んだ。 	北海道がんセンター ピアサポーター 滝澤ひとみ氏
	12/14	家庭科 (家庭基礎)	1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習済みの食生活分野の復習から、がん予防を考える。 ・「支え合い、共に生きる＝共生」と社会保障について考える。 (QOL) 	本校家庭科教諭
2 年次 看護希望者 (18)	12月中	理科 (生物)	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「がんの告知」についての事前学習 ・告知についての考え方、告知の範囲についてインターネットで情報を集約し、新聞記事を教材として考えをまとめた。また、がん講話を聞いたことによる考え方の変化などについて、グループディスカッション形式で各自の考えを発表した。 	本校理科教諭
1、2 年次 看護希望者 (33)	12/18	看護学生 と懇談	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「がんの告知」について本校生徒と看護学生によるグループディスカッションを行った。 	富良野看護専門学校長 澤田貴美子氏